

ひろしまの森づくり事業（交付金事業）推進の考え方（第3期：H29～H34）

市町名：海田町

1 要旨

海田町の森づくり事業（交付金事業）を実施するにあたり、「ひろしまの森づくり事業に関する推進方針」を踏まえ、海田町の里山林を取り巻く現状と課題を念頭に、第3期の推進方針を定め、これに基づいて森林の持つ公益的機能を持続的に発揮できる取り組みを行うこととする。

2 里山林の現状と目指す姿

区分	現状	課題	目指す里山林の姿	取組む内容
鳥獣被害防止林	・イノシシなどの野生動物が人家近くまで活動域を広げ、鳥獣被害が拡大している。	・イノシシなどによる鳥獣被害が拡大しているため、野生動物との共生を目指した里山林整備が課題となっている。 ・箱罠設置等の対策を講じても効果が限定的となっている。	・イノシシなどの野生動物が人家近くまで活動域を広げつつあることから、生物多様性の保全や野生生物との棲み分けなど、一定の緩衝機能を持った里山林に整備し、野生動物との共生を目指す。	・鳥獣被害が著しい地域において、バッファゾーンとしての森林整備と捕獲・追い払い等の対策を一体的に取り組むとともに、持続した管理が見込まれる地域から重点的に実施する。

※区分は市町が森づくり事業に取り組む方針により選択して記載すること。

3 森林を守り育てるための取り組み

区分	現状と課題	目指す姿	取組む内容
森林を守り育てる体制 森林整備を行う者 森林整備を助ける体制 （森林資源の継続的利用）	地元住民らで整備及び管理を実施しているが、参加者は固定化し少数である。今後は人数の確保が課題である。	有害鳥獣駆除班及び公衆衛生推進協議会の協力により継続的に管理及び整備を実施し、鳥獣被害の軽減を図る。	公衆衛生推進協議会及び地域住民を中心に新たな担い手を育成し、次世代に活動を引き継いでいく。
取組への理解促進 参加拡大による理解促進 事業の理解	・ひろしまの森づくり事業県民税による事業の活動内容について、地域住民は周知できていないと思われる。 ・住民の森林に対する認識が低く、住民自らが森林整備等の学ぶ機会の情報発信力も乏しい。	・県民の納税によりこの事業は実施されていることを周知し、自らの事業であると言う認識を持つ。 ・森林から恩恵を受けていると言う認識の下、地域住民が首軸となり、自然がもたらす自然の恵みを大切に、野生生物との共生を目指す。	・町の広報媒体でひろしまの森づくり事業の効果について掲載し、住民に発信する。 ・実施箇所については、森づくり事業で整備した旨の看板等を設置する。